

令和2年度第1回上越市女性サポートセンター運営委員会 会議録

1 会議名

令和2年度第1回上越市女性サポートセンター運営委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市女性サポートセンターについて（公開）
- (2) 令和元年度事業実施報告について（公開）
- (3) 令和2年度事業計画について（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

令和2年10月23日（金）午後2時00分～3時10分

4 開催場所

春日謙信交流館 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：齊京貴子（委員長）、片所真理子（副委員長）、樋口芳子、竹山貞子、五十嵐郁代
- ・事務局：産業政策課五十嵐課長、米山参事、大島係長、長谷川主任

8 発言の内容

(1) 上越市女性サポートセンターについて

※事務局から一括説明

○質疑・意見等

竹山委員：運営委員会は年1回の開催であるが、以前から年1回なのか。他の審議会などは、年度初めに今年度の事業を確認し、結果報告と次年度に向けての修正事項の確認を年度終わりに行っている。最初に委員になった時から不思議なのだが、運営委員会の開催時点で事業計画が決定しているので、委員の位置付けがよくわからない。出来上がったものに対して目を通すだけで、良いか悪いか意見も何も出せない。

五十嵐課長：以前は、高田地区公民館に併設して女性サポートセンターがあり、公民館と共同で講座やセミナーなどを開催していたので、運営委員会は年2回開催していた。その後、オーレンプラザに移転した際に産業政策課の所管となり、女性の労働やワーク・ライフ・バランスの推進に主軸を置いていく中で、年1回の開催になった。ただ、年1回と規定されているわけではないので、委員からご意見を伺い、必要に応じて、開催の回数やどのタイミングで開催するかなどを検討させていただきたい。

齊京委員：来年度のスタートまでに、女性サポートセンターや運営委員会の意義を事務局で考えてもらいたい。今の世の中に合う審議会になっていけばよいと思う。

五十嵐課長：位置付けについて、事務局で、今年度中に整理させていただければと思っている。

竹山委員：公民館事業のときは、生活に必要な知識・技術やマナー講座など、いろいろな講座がもっとたくさんあって、もうやらないのかという声はずいぶん聞いた。楽しかったし、いろいろなことを教えてもらえて良かった。突然、所管が変わり、ワーク・ライフ・バランスの視点になり、委員として関われる部分が少なくなっている。委員の役割はなく、ただ決まりだからこの委員会を開催して、開催したということにしているに過ぎな

いと思っている。意見を出せるわけでもないのに、何にもならない委員会のような気がしている。

五十嵐課長：委員の皆さんからご意見をいただき、必要であれば社会教育課とも情報共有を図りながら、この委員会の在り方を見直していければと思っている。

(2) 令和元年度事業実施報告について（公開）

※事務局から一括説明

○質疑・意見等

竹山委員：資料No.2の「企業向けワーク・ライフ・バランス推進セミナー」で行った異業種交流会について、違う会社の人と話をすることで、自分の会社は遅れていると思った人と、うちの会社に勤めてよかったなと思う人がいて、このディスカッションは盛り上がったと思う。講師の話を聞くだけではなく、今後もこのような参加型のセミナーを取り入れたらいいと思う。

長谷川主任：いろいろな業種の人が出て、それぞれ意見を述べ合う中で、気づきがたくさんあったようであり、今後の参考にさせてもらいたい。

竹山委員：会社の指示で嫌々参加したが来て良かったという人もいて、やはり出てみないと分からないこともたくさんあるので、参加するとよいという声も出るかもしれない。

五十嵐委員：相談窓口について、どのような方法で市民の皆さんに周知したのか教えてほしい。

長谷川主任：月に1回、広報上越に掲載している。また、市のホームページでも紹介している。

五十嵐委員：その都度、事前に掲載しているのか。

長谷川主任：その都度、事前に掲載している。

竹山委員：知らない人もたくさんいると思う。相談員が月1回常駐しているのならもったいないのでもう少し活用があるとよいと思う。もっと困っている

人はいると思う。

長谷川主任：事前に予約がない場合は開設していない。事前に電話で予約した人に対応している。

(3) 令和2年度事業計画について（公開）

※事務局から一括説明

○質疑・意見等

片所委員：女性の雇用に関する相談窓口は、ハローワークとどのように違うのか。どのようなことをしているのか。

長谷川主任：実際に就職活動をするに当たって、求人の相談ができるのがハローワークのマザーズコーナーである。市が開設しているのは、労働全般についての様々な悩み、例えば親の介護の関係や、働く気になれないのだがどうしたらよいのかなど、気軽に相談できる窓口として開設している。

片所委員：仕事を紹介しているということではないのか。

米山参事：仕事の紹介は市では行うことはできない。職業の斡旋になるとハローワークしかできないので、その前の段階の部分で相談に応じている。

竹山委員：男女共同参画推進センターも女性相談を行っているが、似たようなことをやっているのか。例えば、パソコンができなかったら、男女共同参画推進センターで教えることもしているが、そことどう違うのか。

五十嵐課長：労働相談の窓口は様々あり、重なる部分もある。

竹山委員：雇用政策専門員が欠員の中、相談の予約は受け付けているのか。

長谷川主任：電話があれば相談を受けている。

竹山委員：どんな人が対応しているのか。

五十嵐課長：雇用政策専門員が欠員の間は、若者サポートステーションや福祉交流プラザにつないだり、必要に応じて市の保健師の相談窓口につないだりしている。

齊京委員：いずれにしても、相談窓口の存在が市民にはわからないので、例えば子育て広場など、子育て中の親が行くようなところにポスターを貼って、

いつでも気軽に相談できることと予約が必要なことを周知できればよいと思う。

竹山委員：世の中ともう少しつながりたいと思っている人はいると思う。広報上越を読まない人も多いので、情報が目に付くようにする必要があると思う。

齊京委員：市のホームページも検索の仕方がわからなければ、情報を探しづらいと思う。

五十嵐委員：現状、雇用政策専門員が欠員ということであるが、例えば、悩みを持つ人が気軽に参加できるような講座を開くとか、補充されるまでの間にできることで対応しながらPR効果を上げていく、認知度を上げていくという方法もあると思う。また、専門員がどういう状況で採用されるのか、実際に上越にどのくらいいるのかわからないが、すぐに採用されるかという問題もあるので、その間にできることを検討するのがよいと思う。

齊京委員：子育て中の母親はどうしたらよいかわからない問題が多く、悩んでいる人が多いので、どのようなことが相談できるのかポスターなどに書いてあると、気軽に行けると思う。ハローワークで聞くわけにもいかないし、かといって社会保険労務士にお金を払って聞くことでもないかなという悩みについて、助けてあげるといふ部分では大事なポジションだと思う。

竹山委員：上の子は幼稚園や保育園に行っているが、下の子がいるという人がいるかもしれないので、予約の時に子ども連れでも大丈夫であることを記載し、配慮するということは優しい方法だと思う。子どもがいてもゆっくり話ができる環境は重要だと思う。一步一步進めていって、階段を上がって行って、上越に住んでよかったと思えるように、これ以上人口が減らないようにするためには、このような積み重ねが大事だと思う。

五十嵐委員：どこが出しているかわからないが、子育て支援の人たちに向けた冊子が出ていると思う。例えば紙面を借りて、子育て支援の人たちにアドバイスで活用してもらおうなど、他の子どもが関係する課と一緒に何かやってみることもよいと思う。

竹山委員：相談窓口がまだ市民と遠く離れた感じがするので、市民にもう少し寄り

添う感じで周知するとよいと思う。

五十嵐課長：事業計画の中身については、ご説明したとおりに進めさせてもらおうと考えているが、開催時刻は適切か。今までだと午後 2 時開始という時間帯で開催しているが、この時間帯は参加しづらいとか、平日より土曜日がよいなど、ご意見をいただきたい。

竹山委員：会社の担当者をメインターゲットとすると、平日の午後 2 時から 4 時がよいと思う。

五十嵐課長：それでは、午後 2 時から 4 時という例年の時間で、講師の都合もあるので、調整しながら進めさせていただく。

竹山委員：資料No.2 によると、企業向けワーク・ライフ・バランス推進セミナーの参加者が 24 人とあるが、男女別の人数も記載されているとわかりやすいと思う。

五十嵐課長：今後の報告の仕方を検討する。

(4) その他（公開）

長谷川主任：年に 1 回の機会なので、皆さんにワーク・ライフ・バランスに関するご意見、日頃思っていることを何でもよいので、順番にお伺いしたい。

五十嵐委員：大きな会社であれば、お互いにカバーできるような環境を作りましょうとある程度強制的に環境を作れるが、個人商店だと積もり積もって事業主の家族の負担が大きくなってくると思う。誰がどのようにカバーし、その働き方をスムーズに、皆が気持ちよく回せるかという、人数の少ない中での回し方というのは、小さな商売をしている人にとっては大きな問題だと思う。働き方の種類が多様である方が求職者の枠が増えて、お互い様というところがあるので、そこをどういう風にマッチングできるかという問題が、コロナ禍を過ぎて増えてくると思う。小規模な事業主と話をすると、皆さんそういった形で今回の影響を受けて、従業員さんの働き方を変えたので、その分の負担が増えたという人が結構いる。特に事業主の配偶者の負担が大きいというのは聞いており、その負担は仕

事だけでなく家事にも影響してくるので、どのようにカバーしていくべきかという問題はある。

樋口委員：今は、コロナの関係で早出遅出勤務、在宅勤務なども取り入れて、職員個人のワーク・ライフ・バランスを考えた中で、幼稚園の送迎が必要な世代もいるので、そういう人は遅出にするとか迎えがある時は早出にするなど、コロナを機会にして働き方を見直していきたいということである。男性の育児休業の取得もするようにしているが、今まで男性が育児休業を取るということがなかった中で、ご本人が取りづらいというものもあるが、今は若い人の考え方も変わってきているので、育児休業を取る人も増えてきている。

齊京委員：今の若い人たちはワーク・ライフ・バランスを上手くやっている。一番問題なのが、50代60代の人たちがわかっていない。わかってくれと言ってもわからない世代の人たちの気持ちをどう変えられるか。変えるのが無理かと思ってしまうが、それではだめだと思う。実際、50代60代の人たちがその制度に対して、きちんと波に乗ることができていないと思う。この委員会でもきちんと発信していく必要がある。また、個人事業主は、きちんと休みが欲しい若者や働きたい時間で働くパートでシフトを組んでいるので、ギリギリいっぱいである。さらに、その人たちに有休休暇を必ず何日以上取らせなさいと言われても非常に厳しい。そもそも市レベルの話ではなく国のレベルで、大企業だけでなく中小企業や個人事業主を含めて制度設計をし直す必要があると思う。

片所委員：ワーク・ライフ・バランスということよりも、コロナによって全てが変わっていくと考えている。あえてワーク・ライフ・バランスと言わなくても、家でも仕事ができるなど全てが変わってきていると思う。皆さん自分自身のことを考えているし、ここでなくても働けるという考えを持っているので、あえてワーク・ライフ・バランスと言うのが古いような気がしている。人の心配をするよりも自分がどう生きていくかということを考えているのではないか。

竹山委員：私の年齢でワーク・ライフ・バランスというと、子育てというよりは介護である。親もあるが、ある程度の年齢になるとパートナーの具合が悪

くなることもある。でも仕事を辞めてしまうと先々困ると思う。90代
の人は年金がよいが、それより若い世代はよくない。だから早期退職を
すると負担になるので、その働き方改革の一つには絶対に介護というこ
とが付いて回ると思う。ある企業は、介護は1日2日の話ではないの
で、有給休暇を積み立て方式にしているそうである。病気で1年間療養
した人が、1年間の給料を普通にもらって、安心して療養することがで
きたという話である。積み立て方式というのはすごい考えだと思った。
私が働いている時はほとんど有給休暇を流していたので、それが溜まっ
ていたら違うだろうなと思う。異業種の人たちが集まって、事例を共有
していることもあったので、やはりこれだけが道ではないということを知
ってほしいと思う。

五十嵐課長：コロナ禍ということもあり、テレワークやワーケーションなどいろ
んな話題も出ていると思う。事務局としてもどのような支援ができるか検
討しているところで、そこについてご意見があればお伺いしたい。ワー
ク・ライフ・バランスという言葉のことでご意見があったが、地道に周
知していくことが重要だと考えている。来年度を含め、50代60代の人
たちにも伝わるよう、ホームページだけではなく、県が作成している冊
子での周知や、市でも簡単な冊子の作成も検討したい。それらを持って
事業所を回り、意見を聞くのもよいと思っている。冒頭でも委員会の在
り方についてご意見があったので、事務局として検討させていただき
たいと考えている。今年度はセミナーを開催するので、その際にご応募
いただければと思う。

9 問合せ先

上越市産業観光交流部産業政策課 TEL：025-526-5111

E-mail：sangyou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。